

令和6年度 県立土浦第一高等学校(定時制)自己評価表

目指す学校像		
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できる総合的な成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認め広い視野を持てるような成長を目指す。 	
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら仕事の効率化を図り、余裕を持ち職場や仕事の内容における改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 ・常にリスキリングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、得られた知識を同僚及び生徒に還元することを目指す。 	
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓ができて、生徒が明るく学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 ・プロセス、ガバナンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。 	
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良いより強い教育基盤の構築を目指す。 	
三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 ・自己分析、自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。 ・自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした質の高い授業及び考査を実施し、主体的な学習態度を育成する。 ・特別活動や学校行事を推進し、自主、協働、厚意の精神を育成する。 ・主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な意見を受け入れ、協働する精神を育成する。 ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。 ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる充実を図る。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを分析・理解し、高い目標を持ち、妥協のない進路が選択できること。 ・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。 ・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。 ・土一ネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。 ・生徒の希望進路実現100%を目指す。

別紙様式2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>「重点目標」「具体的方策」の各評価項目において、いずれの分野においても適切かつ妥当な評価を得ている。</p> <p>今年度の本校教育活動の一層の充実を図るための課題は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着と分かる授業の展開 ・進路指導の充実 ・基本的生活習慣の確立 ・生徒理解の充実 ・学校情報の積極的発信 ・働き方改革の推進 	<p>①高い志 (=信念・厚意) の育成</p>	<p>① 高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。</p> <p>② 生徒の自己理解を促し、高い目標設定と絶え間ない努力ができるよう、個別面談の充実を図る。</p> <p>③ 将来において、地域でのリーダーを目指すべく、個人の可能性を伸ばせるように支援する。</p> <p>④ 学びのプロセスを記述するキャリア・パスポートの活用、キャリア教育、進路支援などを通じて生徒が自ら進路を拓けること。</p>	<p>B</p>
	<p>②自己理解による主体的学習態度の育成</p>	<p>⑤ 授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。</p> <p>⑥ しっかりしたタイムマネジメントと主体的に学ぶ姿勢を育て、効果的な学習活動を支援する。</p>	<p>B</p>
	<p>③授業改善 (AL 型授業展開等) による生徒の理解度向上</p>	<p>⑦ 指導法の研究を各教科で行い、深い学びの場の提供に努める。各授業において～導入～授業～再確認という流れを作る。</p> <p>⑧ 研究授業の開催、相互授業参観、先進校視察や校内研修会を通して、授業改善及び指導力向上を図る。</p> <p>⑨ 生徒による授業満足度 3.2以上を目指す。</p>	<p>B</p>
	<p>④豊かな人間性の涵養による心理的安心の向上</p>	<p>⑩ 挨拶の励行に努め、好ましい人間関係をつくる能力を涵養する。</p> <p>⑪ 社会の一員であることを自覚させ、責任ある行動がとれる人間の育成に努める。</p> <p>⑫ 規範意識の高揚を図るとともに、清潔感のある身だしなみを意識できるよう支援する。</p>	<p>B</p>
	<p>⑤個に応じた細やかな進路支援の充実</p>	<p>⑬ 3修3卒希望者に対し、高卒認定試験に向けた受験サポートなど、より積極的な支援に努める。</p> <p>⑭ 就職希望者への面接練習など生徒一人一人の希望に沿った細やかな指導を</p>	<p>B</p>

別紙様式2 (高)

		実施し、各生徒の進路実現に努める。 ⑮ 進路情報の収集と提供に努め、進路に関するホームルームなどの充実を図る。		
	⑥学校情報の積極的発信と保護者・同窓生・地域との連携	⑯ 学校の情報を積極的に発信するために学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑰ 地域とのコミュニケーションやふれあいの機会を大切にし、小中学校や近隣の方との交流を図る。		B
	⑦全日制生徒、附属中生徒との交流の推進	⑱ 文化祭等の学校行事や部活動などにおいて、全日制生徒及び附属中生徒との交流や連携を工夫する。		C
	⑧ICT 機器の活用などによる効果的授業の実現	⑲ 情報 (ICT) 教育の強化及びICT機器の効果的な活用を通じて、生徒の学習理解を幅広くサポートする。 ⑳ 授業改善を考える手立てとして、先進的な事例紹介等の機会を増やし、研修の充実を図る。		B
	⑨働き方改革の推進による WLB 向上	㉑ 学習指導等の質の向上を図りつつ、資料等のペーパーレス化など業務の効率化を進める取組を推進することで、職員の負担軽減、環境改善を図る。 ㉒ 在校時間の自己管理や休暇が取得しやすい環境づくりを推進し、働き方の意識向上に努める。 ㉓ 超過勤務・ストレス等を把握し、課題の改善・解決に向けて取り組む。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の定着を図る。	一人一人の能力を把握し、必要に応じて補習授業等を積極的に実施する。⑤⑥	B	生徒間での基礎学力や勉強に対する意欲も様々であり、今後更なる個別最適な学びの構築が必要と考える。個に応じた指導のより一層の充実を目指して、対応を図っていく。
		観察、応答を通して、生徒の理解度、達成度を把握しながら授業を展開し、「読み」・「書き」・「計算」などの基礎学力の定着に努める。⑤⑥	B	
	個に応じた指導の充実を図る。	幅広い進路ニーズに応えるため、個別指導等の充実に努める。⑬⑭⑮	C	
		小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。⑦⑧	B	
教科 国語	基礎学力及び学習意欲の向上に努める。	生徒の興味・関心や共感のもてる教材を選択し、生徒が主体的に参加する授業を展開する。⑤⑦	B	B

別紙様式2 (高)

			漢字・語句に関する小テスト(月2回程度)の実施をとおして、語彙力の向上に努める。⑦	B		授業。 漢字の知識を増やす。
			定期テストの結果を踏まえ学習理解の定着が不十分な生徒については補習を行う。⑭	B		丁寧な補習と試験対策。
地歴 公民	基礎学力の向上を目指した指導の充実を図る。		基本的な知識を修得することを目標として、進度をコントロールし、他教科の内容なども含めた学習を心がけ、高校生の履修内容にふさわしい段階まで理解を深める。⑤⑦⑨	C	C	歴史的、社会的事象に対する自己の考えを持ち、それを他者に対して表現できるようにする。
数学	基礎学力の定着と向上を図る。		基礎基本の内容に十分な時間をかけて指導する。⑤⑨	B	B	基礎基本の学力と言語理解により多様性がみられるため副教材および動画などの積極的な利活用や進んだ学習を希望する生徒への個別対応。
			授業毎のプリントを作成し、単元の小テストを実施する。⑥⑱	B		
			希望する生徒を対象に、課外授業を実施する。⑭	A		
	学習習慣の定着を図る。		ノート、ファイルを定期的に点検し、「書く」習慣の定着を図る。⑥	A		
理科	基礎学力の定着を図る。		ノートを点検し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。⑤⑥	B	B	進学希望の生徒へ課外を実施する等、個別指導を積極的に実施し、生徒の進路実現に寄与する。
	個に応じた指導の充実を図る。		幅広い進路ニーズに応えるため、個々の学力・能力に応じた個別指導の充実を努める。⑨⑭	C		
			小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。⑥⑱	B		
保健 体育	生徒の実態を踏まえた指導計画の充実を図る。		年齢層等に違いのある定時制の生徒の実践を踏まえた調和のとれた弾力的な年間計画にする。⑤⑦⑨	B	B	限られた施設を効率的に活用し、運動量を増やすための種目選択をする。 生徒同士で協力した活動ができるようにする。 健康への意識の向上と、地域社会への興味を高める。
			生徒が運動の楽しさや達成感を味わうことのできる指導計画を図る。⑤⑦	C		
			保健学習における内容の重点化を図り、単元指導計画の工夫・改善を行う。⑥⑧	B		
	豊かなスポーツライフの実現を図る。		互いに協力し、練習やゲームを通して体力・能力を高め、生涯体育に繋げると共に、コミュニケーション能力を高める。⑥⑦⑩	C		
			学習の効率や安全性を高める集団行動の指導を徹底する。①	B		
健康な生活への実践力を培		課題学習やライフスキル教育等、多様な体験的、実践的学習方法の活用や受け身に	C			

別紙様式2 (高)

	う。	させない自主的・自発的学習を促進する。⑤⑪⑫			
		自主的、自発的学習を促進する。⑤	C		
美術	幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、生涯にわたり美術を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒の実態に沿った課題選択を行い、一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。⑤	B	B	美術の諸能力の向上を図るとともに、自己表現するための発表の場をさらに増やし、グループ活動を通して、お互いの個性や感性を認め合えるような授業を展開する。
		相互鑑賞等とおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。⑥⑦	A		
		生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、美術の諸能力の向上を図る。⑨	B		
英語	基礎学力の向上に努める。	ICT 機器を活用し映像等を使い、授業の中で英語表現を覚えさせる。⑦⑱	A	B	基礎となる英単語の反復学習をより一層強化する。
		ノート等を定期的に点検し、生徒たちの授業への取組の改善を図る。⑤	B		
	オーラルコミュニケーションの活用に努める。	アクティブラーニングを取り入れ、グループワークなどを活用し、思考力・判断力・表現力を養う授業を積極的に行う。⑧⑨	B		グループワークを積極的に活用し、スライド等にまとめて表現するような活動を展開していき、オーラルコミュニケーションの活用を図る。
		授業時における生徒相互の会話において、ペアやグループで、英語を積極的に使用させる。③⑤	B		
	ALT を活用した実践的なオーラルコミュニケーションと多文化理解を推進する。⑤⑥	A			
家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。	授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を解決する力を育成する。⑤⑨⑭	B	B	基本的な知識と技術の習得を考えたワークシートや実習内容、ICT 活用の工夫。
		技術の習得について、生徒一人一人の能力にあった個別指導の充実に努める。⑥	B		個々の力に合った実習内容を工夫し、達成感が味わえる指導。
情報	基礎学力の向上を図り、ICT を活用する能力を身につけさせる。	情報と情報技術に関する問題に対して主体的に対応できる力と姿勢を育成する。⑤	B	B	生徒が主体的に学べるような個別最適な授業展開や教材を工夫し、情報リテラシー教育も含めて、人間性の更なる向上のために寄与する。
		パソコンに関する基本的な知識や操作の定着を図る。⑥⑨	B		

別紙様式2 (高)

	商業	基礎学力の向上を図る。	基本的な内容を理解し、実生活に役立つ力を身につけるよう学力の定着を図る。⑤	B	B	実学としての商業教育の定時制での在り方を模索する。生徒の興味関心を惹くことができるような授業展開を心掛ける。定時制の生徒に対して、商業科目としてどのような価値を提供できるか、考えていく。
			課題学習の内容を精選し、教材や指導方法の工夫をする。⑦⑨	B		
教務	ICTの活用を含めた授業の質の向上と授業時間確保に努める。	ICTを活用した教育活動を促進し、効果的に授業等に活用することで授業の質の向上を図る。⑱⑳		B	B	電子黒板の円滑な利用とタブレット端末を利用した個別最適な学びの構築を目指す。情報提供のためにも、定時制の情報を積極的に発信し、定時制のことを知ってもらう。中学校訪問等を積極的におこない、情報交換をおこなう。
		授業開始・終了時刻の厳守、教科・科目の授業時数の確保に努める。㉑		B		
	探究活動の推進を図る。	総合的な探究の時間の推進を図るため、教材等を十分に検討する。⑧⑮		B		
	教員研修の推進に努める。	ICTを始め、様々な研修を実施し、指導法への活用とともに教員自らの働き方への意識改革に努める。③⑱⑳		B		
	学校情報を積極的に発信する。	ホームページをこまめに更新するとともに、中学校訪問等を充実させる。⑯⑰		B		
	PTA活動の充実を図る。	保護者懇談会やPTA新役員の選出を円滑に行う。⑰		B		
	アルバイトを奨励する。	アルバイトを奨励し、アルバイト90日助成を行う。①		B		
特別活動	学校行事等を積極的に行い、生徒会活動の充実に努める。	生徒会を中心に生徒主体の行事を実施し、自治的精神を涵養する。①③		B	B	学校行事への積極的な参加を促す。生徒会を中心とした学校行事の見直し。
		学校行事等で人間関係形成・社会形成能力の育成を図るとともに、継続的な生徒会活動を充実させ、生徒が主体的に取り組めるようにする。③⑪⑱		B		
		キャリア・パスポートの作成及び積極的な活用を行う。④		C		
生徒支援	課題を明確にした指導体制の充実に努める。	巡回・巡視活動を通して、問題行動等の未然防止と解消を図る。⑪⑫		B	B	始業前後に巡回・巡視を行い問題行動等の未然防止
	日常生活上の諸問題を生徒自らが解決する取り組み	好ましい人間関係づくりと自己抑制能力を身に付けるための取り組みの活性化を図る。⑩⑪		A		丁寧な助言を心がけ、悩みや考えを相談しやすい雰囲気作り

別紙様式 2 (高)

	の充実に努める。				
	連携・協力して問題を解決する体制づくりの充実に努める。	教育相談体制を確立する。(孤立傾向にある生徒への積極的な声かけ)⑧⑩	A	SCとの連携	問題行動等の未然防止への理解協力の働きかけ 学校警察連絡協議会等を通じて情報交換や問題行動等の未然防止強化
		保護者、地域社会と信頼関係を構築する。⑬⑰	A		
教職員間、学校と家庭、地域社会、関係機関との情報交換の推進と協力連携によって、いじめや不登校、中途退学や暴力行為等の問題を早期発見、未然防止の強化を図る。⑩⑪⑫	A				
進路指導	個に応じた多様な進路指導の充実に努める。	進路説明会・就職指導の実施:全校生徒を対象に就職・進学などの進路に応じ、説明会を実施する。面接の練習など、きめの細かい就職指導をする。⑩⑪⑭	B	C	進路未定の生徒を無くすため、働くことの意義、目的などを早い段階から啓発し、進路意識の高揚を図りたい。
		進路意識を養う:折に触れて進路意識を養うように努める。⑪⑭	D		
		具体的進路実現に向けた支援:個々の生徒の進路実現をより具体的に把握し、ホームルーム担任と連携し、その実現に努める。⑪⑫⑭⑮	C		
保健給食	心身の健康に留意し、規則正しい生活の促進に努める。	学校感染症の感染予防を徹底する。⑫	B	B	感染症予防のさらなる意識の啓発。 スクールカウンセラーとの連携を促進する。 公共の場を清潔に保つ意識の向上を促す。 次年度も体験による防災意識の向上を図る。 衛生面の徹底や片付けなど、自ら進んでできる指導を、継続。
		心身の悩みに関しては、その都度適宜相談に応じる。⑩⑭	B		
	学習環境の安全と衛生に努める。	清掃の徹底を心がけ、美化意識を高める。⑪⑫	B		
		避難経路を作成し、安全・迅速な防災訓練の実施をする。⑥	A		
	給食での衛生・マナー指導のさらなる向上を図る。	毎食ごとの手洗いの実施を引き続き行うとともに、食前食後の挨拶を奨励する。⑥⑪⑫	B		
第1学年	定時制の生活へ早期転換の支援に努める。	定時制の特性を、オリエンテーション等を活用して理解させる。①②	C	C	クラスマッチ等の特別活動を通して、協力する態度を育成するとともに、相手の気持ち
		生活実態調査や生徒面談、保護者との密な連絡等を積極的に実施して、生徒の情報収集に努める。そして、生徒一人一人の生活環境等を把握するとともに生徒理解	B		

別紙様式2 (高)

		に努める。⑪⑮					
	望ましい学級集団作りに努める。	生徒一人一人と積極的に関わり、生徒との好ましい人間関係をつくる。⑩⑫	B		を考え、思いやりの心を育む。 進路に関する情報を提供し、進路実現に向けて、生徒一人ひとり何をすればよいか、目標を見出す。		
		生徒一人一人の意見や考えを尊重し、協力し合う楽しく明るい活気ある学級集団づくりに努める。②⑩	C				
	基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成を図る。	集団生活の中における個を理解させる。⑩	C				
		生徒相互のかかわり合いの中から思いやりの心を育成し、それとともにトラブルや葛藤、躓き等を乗り越えるたくましい心を育てる。⑩⑪⑫	C				
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。⑪	C				
第2学年	自己実現を図るための基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効活用し、努力することの大切さや必要性を理解させる。⑤⑦	B	B	継続性を涵養する必要があるため、多様な生徒にどのように働きかけ、社会に出る準備を前向きにさせるかを模索していきたい。		
	進路指導の充実に努める。	二者・三者面談を行い、生徒・保護者の希望を確認し、よりよい進路実現を目指す。②⑪⑫	B				
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。⑪	B				
第3学年	自己の適性を見つめ、適切な進路選択を図る。	希望する生徒には3修3卒を積極的に働きかけ、生徒の進路実現につなげる。⑬⑭	B	C	自立するための基本的な生活習慣を身につかせ、他者とのかかわりの大切さを知り、適切な進路選択へと導く。		
		進学希望者には、学校の紹介や学費の説明を通して、選択肢の数を増す。⑭⑮	B				
	家庭との連携に努める。	三者面談を通して、生徒の家庭での不安や悩みの解決に努める。②⑪⑫	B				
		遅刻や欠席を減らすため家庭への連絡を密に行い、進級・卒業を目指させる。⑭	C				
規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。⑪	C					
第4学年	進路意識を涵養し、最善の進路実現を図る。	個人面談や普段からの働きかけにより、自らの進路意識を高めて、最良の進路選択をして積極的に進路活動ができるようにできるよう指導する。②⑭	D	C	進路の実現のために不可欠な基本的な生活習慣(欠席・遅刻など)の確立が不可欠である。		
	基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効に活用し、進路を実現するための学力を定着させる。⑤⑦	C				
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。⑪⑫	C				

別紙様式 2 (高)

働き方改革	働き方改革への意識を高める	ICTに関する研修を実施することで、授業への資料等をICTで共有するなどして、業務の見える化を図り、働き方改革への意識を高める。⑳	B	A	可能な限り業務のICT活用を進めている。今後ペーパーレス化、ICT利用をさらに推進する。
		勤務時間の管理を徹底する。㉑㉒	A		

※ 評価規準：[A、B、C、D、Eの5段階で評価する]

- A……十分達成できている
- B……達成できている
- C……概ね達成できている
- D……不十分である
- E……できていない